

伝統の灯は消さない。地域の人々は、再び歩み始めた

復活



伝統の「駒の舞」を復活させようと、地域の人たちが再び集い、歩み始めた田代神楽。神楽フェスの本番に向け、熱のこもった練習を重ねる保存会の夜に密着しました。

5



1中学生男子3人の息の合った駒の舞。30分間舞いっぱなしだ。体力がなければとても続かない 2ときおり地区の大人が代役として舞に参加。子どもたちに指導しながら一緒に舞う 3地区の女の子も笛に参加。美しい音色を奏でていた 4太鼓のリズムが笛にも舞にも影響する。重要なポジションだ 5笛の吹き手は、舞に目線を送りながら、こちらも30分間吹きっぱなし。後半には音もかすれ出す 6本番で着用する着物の寸法を確認。女性が活躍する場面だ



田代神楽保存会会長 大村道久さん(田代)

わたしが田代神楽保存会の会長になってから、もう10年以上になります。近年では、笛の吹き手や駒の舞の舞い手がおらず、会の存続も危ぶまれていました。しかし伝統を守り伝えることは必要だと、ときおり集まり練習だけは欠かさないようにしていました。今回の神楽フェスティバル開催を受けて、若い人や子どもたちも練習に参加してくれるようになり、保存会に明るい兆しが見えてきたように思います。今後も若い後継者を育て、伝統を受け継いでいきたいと考えています。

神楽フェス開催を契機に復活を遂げる田代神楽

田代区会館、夜6時45分。地区の人たちが、徐々に顔を見せ始める。「こんばんわ」「おう、おつかれさま」。そんなあいさつが聞こえてくる。この日集まったのは、地区の人たち約20人。「どの人も、それぞれ仕事や学校がありますから、体は疲れていると思います。それでも呼びかけに応じて集まってくれるのは、本当にありがたいこと」と語るのは、大村道久田代神楽保存会会長だ。田代神楽は、少子・高齢化のあおりを受け、6年間奉納されなかったという。笛や舞などの後継者がいなくなってしまうためだ。「田代神楽は3年に1度の大祭りで『駒の舞』を披露していました。しかし近年では、後継者が育たず、保存会自体の存続も危ぶまれていたんです。しかし今回、神楽フェスの開催がきっかけとなり、若い人や子どもたちも、練習に参加してくれるようになりました。保存会に明るい兆しが見えてきました」と、道久さんは目を細める。

地元で伝わる大切な神楽 みんなに観てほしい

練習は7月19日から開始さ

れた。週2回、地区の人たちは会館に集い、熱心に練習を重ねてきた。

取材した9月7日。この日の練習は7時過ぎに開始された。笛を吹くのは主に男性陣だが、中には女の子の姿も見える。会館内に、優雅な笛の音が響き渡る。

その音色に合わせて、中学生男子3人が舞い始めた。ときにしなやかに、ときに豪快に一つ一つの所作を確認しながら舞は続く。約30分間、いつときも休まず動き続ける3人の首筋には、とめどもなく汗が流れ落ちた。

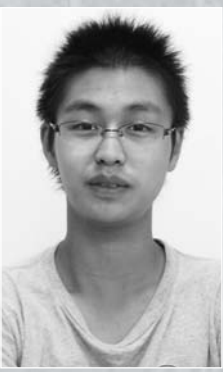
2回目の練習のあと、舞い手3人に話を聞いた。

「舞を舞うのは初めての経験で、最初はとても難しかったです。ずっと舞いっぱなしだから、終わったあとはクタクタ。でも、自分たちの地元で伝わる大切な神楽だし、自分もその一員になれたのがうれしい。本番では、最後まで集中して舞いたいです。たくさんの人に、田代ならではの神楽を観てほしいです」と、口を揃えて答えてくれた。

3回目の練習が始まった。笛を合図に、再び3人が舞台上上がる。時計はすでに9時。駒の舞復活に向けた練習が続く。神楽の夜は、まだ終わらない。



山本健太郎君
本川根中3年(田代)
ぼくはこの田代神楽のことを6年前に知りました。自分も伝統を受け継ぐ一員になれてとてもうれしいです。神楽は、舞う時間が長いので、集中を切らさないようしっかり舞いたいです。



北川俊君
本川根中3年(小長井)
この神楽は、友達から教わり参加しようと思いました。完璧にできる自信はないけれど、2人に合わせて、最後まで頑張って舞いたいです。ほかの神楽とは違う、田代ならではの神楽を観てください。



高瀬大陽君
本川根中3年(田代)
この田代神楽は、元々の大切な伝統芸能です。ぼくも参加できることを誇りに思っています。舞は初めてのので分からないことも多いですが、本番では、ぼくたちの舞をみんなに披露したいです。



4

3

2